

時局日誌 (十五)

Y

H

生

十月十六日 わが陸海軍の猛攻によつて大

治鐵道の起點として重視された石灰窯は

十六日午後三時三十分遂に陥落した。

即ち前日下流四キロの揚五山を征服した

我が陸軍部隊は勇躍十六日早曉から石灰

窯の總攻撃を開始し海軍陸戦隊と巧妙緊

密なる連繫の下に一舉に同地に突入した

ものである、これにより武漢までは剩す

ところ僅に二十餘里既に九江から武漢ま

での半ばを突破し而もこれによつて大治

湖と張家湖の地域を完全に制壓したこと

となる。

海軍陸戦隊〇〇部隊は十六日午後二時石

灰窯東方四キロの漢治洋公司經營大冶鐵

廠を完全に占領我權益を奪回確保した。

十五日駝嶺後方の一角を我が田口部隊に

奪取された敵は狼狽し陣地建直しに努め

つつあつたがこれに餘裕を與へず廣瀨、

田口、徳永、福井の諸部隊は十六日拂曉

以來一氣に敵を壓迫、午前八時各部隊は

井上部隊の猛牛の威力と共に進出、況家

巷西高地を占領、同二十分には駝嶺の殘

る一角の敵を驅逐して茲に駝嶺を完全に

占領。

十月十七日 我が香港總領事館に達した情

報によれば我軍は十六日夜數ヶ所に於て

廣九線に到達し廣九線に沿つて廣東方面

にをけ前進しつゝあると。

惠州より西進中の日本軍は十六日遂に龍

羅を占領した。

惠州より更に北進中の日本軍は〇〇に向

ひ急進を續けてゐるが日本軍に最も近い

支那軍の集結地は〇〇で、同地は廣東を

去る東北方〇〇マイルの地點にある、香

港、廣東間の凡ゆる聯絡機關は杜絶状態

にあるので廣東の情勢は當地では今は不

明である、日本軍によつて占領せられた、

淡水その他の村落より避難民約一千名が

十六日英租借地に入つたがこれ等避難民

の言によれば、日本軍歩兵が到着する以

前に猛烈なる塗襲がいつも行はれるので

占領に際しては何等の抵抗も行はれない

とのことである。

十月十八日 堅陣駱嶺の陥落により退却を開始した敵に對し我軍は十七日夜半來追撃戦を開始し青石橋南方の要點白石尖、仙姑嶺、觀音廟を次々に奪取十八日午前我が第一線は徳安へ一里餘(五キロ)の線に追つた。

人見部隊、津田部隊は十七日午前十時三溪口に突入、午後一時掃蕩を終つた、三溪口は陽新、南昌、箸溪、通山、咸寧、武漢等の重要地點へ通ずる各軍工路の要點で富水の線に敗れた敵はこゝに踏み止まつて再擧を圖らんとしたが人見部隊の猛追に遂に陥落するに至つたものである。三溪口南側山嶽敵陣地から猛烈な銃砲火の斜射連射を受けつゝも斷乎敵前數百メートル附近で富水渡河を敢行した平田、中島、永井、原田、田中、石本等の各部隊は山地河川濕地等進路を阻む幾多の障礙を次々に突破して勇躍富水支流左岸の丘陵地帯に進出するや勇氣凜々秋草を蹴

つて進撃又進撃十七日午後五時五十分そ
の先鋒は陽新西南方三里半の沿埠頭を占領した。

〇〇部隊は十五日麻城街道の地に聳え立つ西山に猛攻を加へ突撃十數回、文字通りの肉弾戦を敢行、戦友の屍を踏み越え四十五度以上の急峻を突進し遂に西山を占領した。

石灰膏を占領せる海軍陸戰隊は十七日午前同市の掃蕩を完了せり、鹵獲物件左の如し。

大冶鋼鐵路、利華公司鐵石約五十萬トン、
麥粉約五千俵、煉炭約九千トン、
鉛材一萬本、機關車二輛、大豆五百俵、
貨車三十輛、十一、五サンチ重砲四門、
二十ミリ機銃一門。

十月十九日 海軍大佐大勳位博義王殿下は午前二時東京麹町區紀尾井町四番地伏見宮邸に於て薨去せらる。

事變に敢つた盡忠の英靈を神と祀る靖國神社臨時大祭第二日の儀は十九日、長く

も天皇陛下の臨幸を仰ぎ奉つて嚴肅に盛大に執り行はれた、この日陽光麗らかな秋日和、社頭は森嚴の氣も一しほ、社殿では午前九時早くも陸海軍兩省保官、鈴木宮司以下が祭典を奉仕、本殿の御扉を開いて御饗を供し奉り同九時半には板垣陸相、米内海相、臨時大祭委員長川岸中將以下在京近衛、第一兩師團各部隊の總代、合祀關係部隊の代表者等が參着、宮司が祝詞を奏する頃には高松宮、三笠宮兩殿下をはじめ奉り各皇族殿下、近衛首相以下各閣僚、文武顯官らも軍裝又は通常服に威儀を正して中門内に參着した。

神城の玉砂利を埋めて跪坐、殊遇に感激して翼駕を御待ち申上げる。

天皇陛下には陸軍御軍裝に大勳位副章以下各種勳章御佩用の御凜然たる御英姿にて午前十時宮城を御出門、百武侍從長陪乘、松平宮守、佐美侍從武官長、石黒行幸主務官以下供奉の略式自動鹵簿で御順路を神社へ行幸、遺族席前では特に鹵簿

を御徐行せしめられ、競しく御會釋を賜ひつゝ、諸員奉迎、曉曉たる軍樂の裡に中門内拜殿前に着御、委員長御先導、陸海兩相等扈從申上げ御ひるひにて、祇所に進御、芝小路禰宜奉仕の御手水、御修祓を終へさせられてのち官司の御先導で本殿へ進ませられ、御拜座に就かせられた、この時侍從長は官司より御玉串の傳進を受けて陛下に奉れば、陛下にはこれを御手に執らせ給うて祭神を御親拜あらせられた、陛下には御玉串を侍從長に授け給ひ、侍從長官司に傳へて官司神前に奉奠、かくて陛下には再び玉歩を遣はせられて拜殿前で御料車に乗御、軍樂再び響き諸員、遺族感泣して奉送する裡に同十時二十分過ぎ發御、鹵簿肅々と宮城へ還幸あらせられた。

香港においては廣九線の要衝で東江沿岸にある石龍が十九日午前九時半日本軍の手に歸したとの説が専ら傳へられてゐる、石龍は東江下流デルタ上最東端の街で、

時局 誌

廣九線により廣東より六四キロ、九龍より一五キロ弱の地點にあり東江の水路と廣九線により水陸交通の要衝であると同時に軍事的にも廣東東方の重要據點の一である、人口は約一萬位、商業中心地として有名である。

十九日早朝増城郊外に進出せる〇〇快速部隊は増江敵前渡河を強行、午前九時四十分増城市街に突入し完全にこれを占領せり、敵は我が神速果敢な進撃に算を亂して四散せり、なほ増城西方高地一帯には數千の敵あり。

十月二十日 増城を占領したわが部隊は十九日さらに増城、廣東間新設道路の北方に蟠踞する敵第廿旅（旅長陳勉吾）道路南方の第百五十八師（師長曾友仁）を撃退廿日朝は増城西方約二キロの線で戦車十數臺、砲數門を有する敵兵約三百が逆襲して來たのを輕く一蹴、午後二時四十分にはすでに増城を距る約五里の地點鄭整を占據し廣東を距る十里の地點に進

出した。
海軍航空部隊十九日における戦果概ね左の如し。

一、龍門、從化並に増城西方地區等の陣地帯に據る敵を猛撃すると共に廣東方面よりの敵増援部隊並に戦車、軍用自動車群を途上各地に扼し大損害を與へたり。

二、廿日迄の爆撃により粵漢線は源潭、銀盞坳、畢村莊等において完全に破壊せられたり、十九日軍田並に黃沙の兩驛において貨車廿輛、大運貨船三隻、戎克十數隻を粉碎す、廣九線は既に死滅せり。

三、天河、白雲、從化各飛行場敵機を認めず、從來敵は一夜にして滑走路の彈痕を修復するを常とせしも近來は數日間互に放置しあるを認む。

十月二十一日 二十一日夜わが軍は完全に廣東市を占領せり。

十月二十二日 廣東防衛陣地線惠州、増城、

廣東東側地帯に於て相當なる激戦が展開され敵に多大の損害を與へたが、惠州陥落以後二十一日正午沙河、廣東間掃蕩戦までに敵に與へた損害は、

死者増城附近二千、牛頭山一千その他所在の遺棄死體を加へると敵の死者四千を下らず、又鹵獲品は戰車五、速射砲三十五、裝甲自動車十五、乗用車五その他機關銃、小銃及び彈藥等多數に上り。

これに比し我軍の損害は敵の百分の一以下であり斯の如き輕微な損害を以てこの大上陸作戦が成功したことは戦史に稀なるものとして驚嘆されてゐる。

十月二十三日 我軍の猛進撃に敵も遂に支へ切れず、三ヶ月は十分に支へ得ると稱した蔣介石の自信にたつぷりの豪語も今は夢、既に武漢の運命は決し、まづ江北では敵全線に互り一兩日來續々と後退を急ぎつゝありこれに對し我軍は沙窩南方の大別山々脈の一角突破に續いて新店方

面も廿二日五里山東南十二キロに屹立す

る一、二三〇高地を奪取日章旗を掲げ待望の省境突破をなして麻城を睥睨し、これに呼應して信陽方面も二十一日平靖關西方を迂回して省境を突破し湖北省内に殺倒した、かつて敵が不落と誇つた本防禦線は全面的に崩れ去り、江北一帯の敵は大動搖を來し、孝感その他各飛行場を破壊し應山より隨縣方面に逃走するもの孝感、應城、京山へと潰走するもの、或は漢水を遡江して西安方面へ向ふもの、長江を渡河して南方に去るものなど總崩れの兆歴然たるものあり、この狀況に勇躍した我が陸海の荒鷲は得たりとばかり各線の敵大集團に對し猛烈な追撃爆撃を敢行中である。

陸海軍の精銳部隊は緊密なる協力の下に昨二十二日新たに珠江江口に進入し上陸に成功せる陸海部隊は夕刻大角頭差を掃蕩虎門要塞對岸に進出せり。

海軍艦艇並に飛行機は虎門方面の敵に猛

攻撃を加へたり。

一、海軍艦艇は二十二日午前陸軍輸送船團を護衛し珠江江口に進入敵の抵抗を排除しつつ複雑なる水路を突破して陸軍上陸舟艇を掩護嚮導し之を大角頭島に揚陸せしめたり、海軍艦艇並に航空隊は沿岸敵陣地を制壓すると共に熾烈なる防禦砲火を冒し終日虎門、川鼻角方面の敵砲臺に徹底的砲爆撃を加へ甚大なる損害を與へたり、尙珠江江本流支流には沈船、防材、機雷を以て構成せる數個所の閉塞線あるを認む。

二、二十一日廣東方面に於て海軍航空隊が敵に與へたる損害は兵三千、戰車、裝甲自動車、「トラック」等合せて百七十臺を下らず。

十月二十四日 大元帥陛下には本日午後二時參謀總長宮殿下並に軍令部次長を宮中に召させられ左の如き優渥なる御言葉を賜はりたり。

今次ノ南支作戦ニ方リ陸海軍諸部隊ガ

緊密ナル協同ノ下ニ周到ナル準備ト果敢ナル行動トヲ以テ速ニ廣東一帯ヲ攻略セルハ戦局ニ寄與スルトコロ大ナルモノト認メ深ク満足ニ思フ此旨將兵ニ傳ヘヨ

我が部隊の徳安總攻撃は二十四日午後四時を期して開始された。夜に入るや益急にして午後七時三十五分廣瀬、田口、徳永、長元部隊より選ばれた決死隊は數隻の船に分乗して渡河を開始し二十五分に對岸尖嘴南方の敵前に上陸續いて小原、矢野、岩下、津田各部隊も同様渡河を敢行してこれも難なく對岸に到着同様に各前面高地に辿りついた對岸には多數の銃眼が取つけられてゐたのだが我が空軍の續く爆撃と砲兵隊の活躍によつて僅に一つを残して粉碎されたため敵は殆ど射撃し得なかつたものでこれに引續いて各隊も續々渡河を況行、徳安城に肉薄してゐるが、浮足立つた敵はしきりに赤白の信號燈をあげて午後八時半退却の姿勢

にある、なほ陸軍機はこの星一つなき夜空に爆音を轟かせて狼狽する敵を脅威してゐる。

珠江江口に進出せる我海陸の精銳は緊密なる協同の下に二十三日早朝より虎門要塞の敵砲火を冒して果敢なる攻撃を開始し海軍艦艇並に飛行機の猛烈なる砲爆撃による掩護の下に陸軍部隊は班娘鞋島砲臺に海軍陸戰隊は川鼻角砲臺に夫々敵前上陸を斷行頑強なる敵の抵抗を排除し午後五時虎門要塞の全砲臺を占領せり。

長野、村田、山差、片山の諸部隊は難路と階疊を克服強行軍を以て一路北進惠州の上流約二十キロ横瀝墟において東江を渡河北方山嶽地帯を踏破して隨所に敵を撃破し深く敵の背後を衝いてゐたが、二十三日午前十時遂に廣東北方十三里從化を占領した。

大別山の天險を突破し敵を急追中の〇〇部隊は二十四日午後二時四十分應山に突

入これを占領した。

バイアス灣敵前上陸より廣東攻略まで十日間の我軍の戦果は文字通り神速果敢で二十四日までに〇〇部隊に集められた鹵獲品は、

連射砲一〇〇△山砲一五△十五糎榴彈砲數門△戰車一五△裝甲自動車三〇△自動貨車三〇〇△高射砲一〇〇△列車

一
で敵の遺棄死體は六千、これによつて概算すれば敵の損傷は二萬を超えるものと見られる。

十月二十五日 産金法第一二條ノ規定ニ基

キ金貨幣及金塊保有狀況調査規約(大藏省令第六五號)公布

大隈重信侯生誕百年記念祭は早稻田大學に於て舉行。

大別山東方正面を突破せるわが軍は二十五日午前十時麻城を占領し續いて猛進中なり。

我軍は本二十五日午後四時三十分陸海軍

協力して漢口の一角に突入せり。又先に湖北省蘄水を占領せる我陸軍部隊は爾後敵を急追して揚子江北岸地區を前進し本二十五日夕刻遂に漢口東北部に突入せり中支軍報道部、艦隊報道部二十五日午後七時三十分發表、十月二十五日午後四時三十分頃我軍は陸海軍協同して漢口の一角に進入せり。

高品、平田、石本、中島、堀川等の諸部隊は華容鎮西方一帯に互り頑強な敵陣地を突破し二十五日午後四時遂に葛店鎮を占領、勢ひ立つた各部隊は息もつかせず躍進又躍進最後のゴール武昌を目指し殺到中である。

中支軍發表二十五日午後七時、揚子江岸を席卷進撃せるわが軍は本日五時頃陽邏及び葛店鎮の二大要衝を占領せり。

二十五日午後五時藤村部隊の砲撃と漢口市總攻撃の火蓋は切られ佐野部隊柳田部隊の敵前渡河が開始され、陸海兩航空隊協力の下に柳田部隊は午後六時三

十五分遂に對岸上陸に成功藏家山部落に突入これを占據し引續き急進目標地點内に進撃を開始した。

十月二十六日 故尊義玉御葬送ニ付此日午前十時勅使トシテ侍從公傳徳大寺實厚ヲ皇后宮使トシテ皇后宮事務官大金益次郎ヲ皇太后宮使トシテ皇太后事務官西邑清ヲ葬齋場へ差遣サレ各玉串ヲ供セシメラレタリ

二十六日午後四時我が軍は軍旗を先頭に威風堂々として日本租界と特別第二區の境を行軍して特別區に差掛れば各外國人は手を振り旗を振り大歡迎、これに迎へられて我軍は特別區内の行進を續ける、イタリー人とドイツ人二名が熱狂して我が軍を迎へた、ブリッヂでイタリー領事とジャキノ神父が先づ出て來て我が赤木少佐と感激の握手をする、ようこそ我等

は日本軍の漢口入城を待つておました、しかし斯んなにも早く入城するとは全く思ひも寄らなかつたです、我が特別區が

日本軍によつて微塵も痛められなかつたことを心から感謝します」と述べる、外國人が日本語で萬歳を叫びイタリー兵が整列して「捧げ銃」で我が軍の行進を歓迎する、外人記者が出て來て我軍も迎へ又記者等を見て握手を求めて「お、朝日新聞」と叫ぶ、これらの記者はルーターのサムソン君及びベルリンのローカル・アンツアイガー、ムーヴィートン・ニュースの諸君であつた、而して外人の男も女も子供も噓々として我が將兵の勇壯な姿に近寄つて來て握手を求め我が將兵に「ようこそ」と喜びの眸を輝かせて煙草を贈る、かくて最後に英租界に行進して支那町に突進み夕刻までに漢口全市の掃蕩を終つたのである。

◎厚生省訓令第一號
文部省

北海道廳 府 縣

小學校卒業者ノ職業指導ニ關スル件
小學校卒業者ノ職業指導ニ關シテハ教育機關及職業紹介機關ハ有機的聯絡ヲ保持

シ學校ニ於テハ平素ヨリ職業精神ノ涵養ニ努メ個性及環境ヲ調査シテ兒童ノ選職ニ關シ指導ヲ行ヒ、職業紹介所ニ於テハ卒業期ニ於ケル兒童ニ對シ學校ノ協力ヲ求メテ其ノ適職ノ相談、就職ノ斡旋及就職後ノ輔導等ヲ行フコト極メテ肝要ナリ

● 昭和二年十一月文部省訓令第二十號ヲ以テ職業指導ニ關シ訓令ヲ發シ、學校ニ於テ實施スベキ處ヲ示シタルモ、更ニ今次職業紹介法ノ改正ニ伴ヒ教育機關ト職業紹介機關トハ相俟テ一層職業指導ノ強化徹底ヲ圖リ學校卒業後ニ於ケル兒童ノ職業ヲシテ國家ノ要望ニ適合セシムルコトヲ期セザルベカラズ

今ヤ未曾有ノ非常時局ニ際リ國民ハ全能力ヲ發揮シ時艱ノ克服ニ邁進スルノ要アリ、須ク敍上ノ趣旨ヲ體シ其ノ實效ヲ收ムルニ格段ノ力ヲ致スベシ

昭和十三年十月二十六日

厚生大臣 侯爵 木戸 幸一

文部大臣 男爵 荒木 貞夫

十月二十七日 特殊ノ勞働者募集制度ノ規

律ニ關スル條約(條約第七號)公布

本日午後五時三十分陸海軍協力殘敵を掃蕩し武漢三鎮を完全に攻略せりと午後六時三十分大本營陸海軍部より發表せらる林田、山澤部隊の一部は二十六日午後佛山を占領せり。

昨夜決死隊によつて開かれた德安城壁破壊口から我軍は本日午後零時二十五分期し城内に雪崩れを打つて突入屋上、或は道路上より手榴彈を投げて抵抗する敵を撃滅午後一時頃には城内の大半を占據掃蕩した。

數時間に互り激烈なる市街戰の結果頑強なる敵の抵抗を撃破した官川部隊は城内限なく殘敵掃蕩を終り二十七日夕刻德安城を占領確保した。

秋富、瀧本兩部隊は武昌陷落後息つく暇もなく更に更に戦果を南方に擴大して敵を猛追撃して二十七日午後粵漢鐵道沿線の據點紙坊(武昌南方五里)を占領し

砲臺を確保した。

南支に於ける海軍戰況左の如し。

一、珠江迺江部隊は本支流各所に敷設せる機雷群を排除し又機雷衛所を占領しつつ進撃を續行其の一部は二十六日三水に到着せり。

二、二十五日我飛行機隊は潭洲水道附近に於て敵魚雷艇(魚雷二本搭載)より機銃射撃を受けたるを以て之に對し攻撃を開始せる所右魚雷艇は英國國旗を掲揚するの舉に出でたり、我方は監視を續くと共に直ちに附近に在りし我砲艇隊を誘導し之と共に協同攻撃を加へ(火災を起さしめたり)。

三、陸軍に協同する航空部隊は連日殘敵を搜索攻撃すると共に粵漢線沿線北江西江流域を攻撃し敵部隊運輸機關に甚大なる損害を與へたり。

十月二十八日 畏くも天皇陛下には武漢攻略の赫々たる戦果を御嘉賞遊ばされ廿八日優渥なる御言葉を賜つた、右につき大

本營陸軍部では廿八日午後一時左の如く公表した。

大元帥陛下には午前十一時參謀總長官殿下並に軍令部次長を宮中に召させられ左の如き優渥なる御言葉を賜はりたり

我陸海軍諸部隊カ緊密適切ニ協力シ長途幾多ノ困難ヲ克服シ遂ニ衆敵ヲ擊摧シテ武漢攻略ノ目的ヲ達成スルニ至ルハ深ク満足ニ思フ此旨將兵ニ申傳ヘ

國を擧げて戦捷を祝した本日御稜威を壽ぎ奉る民草の赤誠は日の丸行進となり、宮城遙拜となつて二重橋前を埋め廣場は終日、人と旗と萬歳の聲にどよめいたが、畏くもこの日天皇陛下には民草の赤誠を嘉せられて二重橋上に御出ましになり親しく奉祝を受けさせられ、また皇后陛下にも御車寄近くの土堤まで御出ましあらせられた、この日 天皇陛下には御晝餐後の御運動の御途中、午後三時五十分御愛馬「白雪」に召させられて御

車寄近くに出御、側近奉仕者らを従へさせられて二重橋を通御あらせられたが、御馬上御興爽たる大元帥陛下の御英姿を拜し奉つた民草はこの思ひがけぬ光榮に感激その極に達し、一齊に最敬禮申上げ感泣して萬歳を奉唱したのであつた、また皇后陛下には午前十一時過二重橋上御車寄近くの土堤の上までおひろひにて御出まし遊ばされ旅行列を御覽、親しく民草の赤誠に應へさせ給ひ、遂に尊い御姿を拜し奉つた市民の感激は一入であつた廣東陷落、武漢三鎮陷落、德安陷落して拂曉より萬歳の聲地に滿つ、内務省に於ては午前九時、祝賀の式が擧行せられた、即ち近藤土木事務官の號令に依り開會宮城遙拜君ヶ代三唱次で勅語を捧讀、默祈が行はれて末次大臣は「漢口廣東の陷落は蔣政權を没落せしむるのは疑ふの餘地なきも此後に來るべき新政權の建設は所謂長期建設であらねばならぬ即ち新政權を助長し占領地域否支那全地に新たなる

文化政治經濟を打ち立てなければならぬ日滿支の完全なる結合に依り東洋民族に依りて新なる東洋の文化を實現すべきである過去一年有半の苦難を意義ならしめねばならぬ。歐米の資本主義を排し東洋文化の建設に依り世界の轉換期が來るので肇國の一大理想を顯現し建國の大精神を發揮すべき過程に在る今日の國民は大いに覺悟する所あるを要する。

國民の熱意は忽ち第一線の將士に反映し尙且國外に反映する、此國民の熱意如何が最も大切な事である昨に倍し大いに碎勵努力を希望す」との主旨を訓示せられ宮城に向つて大臣の發聲に依りて萬歳を三唱して閉會した。

武昌防禦に當つた支那軍は第五十五、卅二、百九十九、百九十八、百三、四十四、八十三、五十七の八個師總兵力一萬五千でその敵を三方から攻撃した高品、平田、石本部隊は蔣介石が巨費を投じて購入した各國兵器を多數鹵獲すると共に敵に殲

滅的大打撃を與へて赫々たる功績を残した。即ち捕虜五百、遺棄死體二千六百、鹵獲兵器は重砲八門、野砲八門、加農砲三門、山砲四門、高角砲十二門、機關銃廿七挺、客車八輛、機關車四輛、貨車三十六輛、地雷二百といふ輝かしい戦果を挙げた。

珠江を遡江、一舉に虎門要塞を突破せる渡邊、鈴木兩部隊は海軍部隊と協力二十八日午前七時五十分廣東へ通ずる第二の要塞長洲要塞（廣東東方四里）を占領した。

十月二十九日

任外務大臣 從三位勳一等 有田 八郎
任拓務大臣 從四位勳一等 八田 嘉明
免兼官 内閣總理大臣兼外務大臣 近衛 文麿
大臣 拓務大臣公爵 近衛 文麿
去る廿二日虎門要塞を撃破して珠江水道に突入した海軍珠江艇隊は水流を埋める無數の敵機雷原、防材等を掃海除去しつつ廣東目指して血の惨むやうな苦勞を續けつつあるが、敵は江鳴沙附近に汽船四

隻を沈めて珠江本流を閉塞し、セコンドパー附近には恐るべき機雷原を構成して、我が遡江を阻みつゝあり、本流を衝いた我が艇隊は之に對し周到果敢な掃海を行ひ約百數十個の機雷を爆破し陸軍坂田支隊を嚮導しつつ前進、更に沿岸一帯に出没する殘敵の機銃射を浴び時には陸戰隊を揚陸して之を掃蕩する等苦心を拂つた結果、遂に敵が防備を誇る珠江四十五マイルを突破して廿九日午前十時堂々と廣東に突入、陸軍の歡呼裡に感激の海軍旗を翻した、之に依つて海陸軍はバイアス灣以來十八日目で目指す敵據點廣東に於て再會の握手を交はした譯で珠江航路は完全に我が手に收められ、廣東は全く其の四肢を切斷されてしまつた、一方本流遡江と併行し潭州水道を遡上つた艇隊の先鋒は二十五日三水に達した。

二十九日午後我が軍は粵漢線の要衝咸寧を占領した。

十月三十日

漢陽入城の志摩、石谷兩部隊

は二十七日追撃戦を以て志摩部隊の一部は漢水を遡江、漢陽上流四十キロの漢川を急襲してこれを奪取石谷部隊は太子湖西方の山嶽地帯を掃蕩し太子湖、三角湖一帯を確保した。

安陸を占領した太田、矢木、高井、田附、桑田の各部隊は更に南下急進撃を敢行、三十日午前九時應城を占領した。

武漢保衛に敗れた支那軍は江北だけで少くとも五十個師三十萬乃至四十萬には上らう、この狂亂の大軍は京漢線を越えて西へへと逃げて行く、皇軍は大別山々麓をぐるり一廻りして應城から北へ安陸、馬坪、應山、武勝關を連ね東南に廻つて河口鎮、黃安から麻城に伸びる蜿蜒實に三百二十キロに亘る大包圍線を完成したのだ、而もこの包圍線は刻々狭まられ敗敵は應城から應山とかけて手繰り寄せられてゐる。

即ち安陸北方約八キロ北にかけては山又山の丘陵、高原が深まつて大別山々

脈頂上の峻峻なる峰に連なり、安陸の東西南は廣々とした大平原が續がつてゐるとは云へ、道路といふ道路は安陸應城に集まり、その間の道は總て車も通じない狭い畦道ばかりで大軍の行軍絶對に許はされない。

かくて指揮者を失ひ逃げ行く敵は先を争ひ車輛は動かさず食糧輸送の道も斷たれ、敗軍の運命は既に決つた、武漢攻略の大詰は此處に展開される殲滅戰によつて飾られることであらう。

我が〇〇部隊は廣東より珠江に沿ひ沿道の敵を掃蕩しつゝ三十日石龍を占領せり廣東占領後初代の帝國總領事岡崎勝男氏は同總領事館警察署長松浦弘人氏と三十日正午臺北より到着着任した、同總領事は直に軍首脳部と事務上の打合せを行つたが沙面にある帝國總領事館は種々な點から不便なので廣東市内に適當な家屋を物色した上正式に事務を開始することとなつた。

十月三十一日 來る三日南京に開催される

第二回中華民國政府聯合委員會會議に出席のため臨時政府側委員王克敏委員長、朱深、王揖唐兩委員並に喜多少將、菅海軍大佐等に行はれ三十一日午前九時半北京發飛行機で南京へ向つた。

十一月一日 安陸南方の要點雲夢は三十一

日午後二時四十分我が高橋部隊によつて占領せられた、雲夢には數百の敗殘兵が我が進撃を避け良民を苦しめつゝ逃亡せんとして食糧その他の物資を掠奪中我が快速部隊の急襲に會ひ狼狽その極に達し

大混亂して殆ど抵抗らしき抵抗もせず我が猛追撃に蹂躪せられ遺棄死體多數を殘し西北方に逃げ去つた、かくてこの雲夢占領により武漢西北方の凡ゆる重要都市は全部我が軍の手に歸するに至り武漢方面支那大軍殲滅の包圍體勢は全く餘すところなく完成した譯である。

三十日夕刻京漢線南段の要衝孝感に迫り四方より集結中の敗敵約三千を蹴散らし

て同城及び城外飛行場を占領した倉林部隊は更に息つく間もなく孝感西南方の一里の長江埠に殺到三十一日夜これを占領した。

敗走する敵兵を追つて三十一日午後四時石谷部隊は黃陵磯を占領、更に長江北岸大軍山の要塞を完全に占領更に西進中、日蒙親善に輝く蒙古聯盟自治政府主席徳王、同副主席李守信、察南自治政府最高委員于品卿、晋北自治政府同夏恭氏等一行は三十一日朝九時東京驛發特急つばめで離京西下した。

十一月二日 帝國政府の聯盟諸機關との協力終止については既報の如く二日樞密院の御諮詢の手續きを終了したので同日天羽國際會議帝國中務局長に訓電を發しアヴノール聯盟事務總長に對し左記の如き通告をすべきを命じた。

本官は帝國政府の訓令により、九月三十日國際聯盟理事會が聯盟規約第十七條第三項に基き第十六條の規定は帝國

に適用せられ得べしとする報告を採擇したる結果新たに帝國と國際聯盟との間に發生したる事態に鑑み帝國は國際聯盟脱退後繼續し來れる帝國の聯盟諸機關に對する協力を終止することに決定したる旨こゝに貴下に通告するの光榮を有す

國際會議
帝國事務局長 天 羽 英 二
聯盟事務總長 アヴノール閣下

國際聯盟諸機關との一切の協力を終止するの通告を聯盟當局に通達せしむると共に右に關し外務當局は二日午後六時左の如き當局談を發表し帝國の斷乎たる態度を中外に宣明した。

一、昨年支那事變發生し九月十二日支那側がこれを聯盟に提訴して以來總會及び理事會は帝國の對支行動を九國條約及び不戰條約違反と認定し支那に對する精神的援助を約するとともに聯盟國に對し個別的に對支援助を勸奨しまたわが軍の無防備都市空爆や毒ガス使用

を云々し帝國を非議する諸決議を採擇したが今秋の理事會は更に支那側の要求を容れ規約第十七條を支那事變に適用し遂に九月三十日同條第三項により各聯盟國は帝國に對し規約第十六條所定の制裁措置を個別的に執り得との報告を採擇するに至つた。

そも、最近聯盟の活動を見るにその創立時代の理想と離れ少數列國暗躍の温床となつたことは明瞭で、且つ今回自己の無力に目を蔽ひ帝國に對し聯盟創立以來最初の非聯盟國に對する制裁條項の適用を取つたに至つたことは正に帝國に對する不當干渉たるのみならずまた惡意ある策謀と認めざるを得ない、かくの如き聯盟の實體並に對日態度に鑑み政府はこゝに聯盟諸機關との現存協力關係を終止する方針を決定し、今回御裁可を経て二日付その易天羽國際會議帝國事務局長より聯盟事務總長へ通達せしめた。

一、昭和八年三月帝國が聯盟脱退の通告をなせる際長くも御詔書を換發せられ、帝國の嚮ふところを御指示あり、爾來政府は聖旨を奉體し聯盟脱退後も聯盟の平和人道的諸事業に参加して來たのであるが、不幸今回の聯盟決議の結果帝國は向後これ等の協力を終止することとなつた、しかしこれは聯盟なる機關を通じ行はるる國際事業に對する参加が終止されたことを意味するに過ぎないので前懸、御詔書の教旨は炳として存し、帝國政府はこれを奉體して平和各般の企圖は向後亦協力して徹るなく、なほ依然として人類の安寧福祉を目的とする國際事業に參與協力するに努むるであらう。

國際聯盟との一切の協力關係を終止するとの二日の政府發表により國際労働機關との關係も繼續し後ないこととなり、厚生省労働局では同日夕左の如き態度を表明した。

○……國際聯盟が著しく政治的性質を帯ぶるに反し労働機關の事業は平和的人道的性質を有するものであるから帝國は昭和八年に聯盟を脱退したにも拘らず労働機關とは當然協力を繼續して來たのである、しかるに今回帝國と聯盟とは全面的に對立關係に立つに至つたので政府は聯盟所屬諸機關との協力を關係を終止することに決定し、従つて聯盟と不可分關係にある労働機關についても協力を繼續し得ざるに至つたのである。

○……國際労働機關との協力關係は今日以後終止するわけであるが現下の時局に處して國家生産力の擴充強化のため労働力を維持培養すると共に國民福祉の増進を圖ることは極めて喫緊の要務であるから今後勞務各般對策を樹立實施するにつき一層努力を致さねばならぬと考へてゐる。

○……なほ労働問題は思想問題その他

との關係において國際的に影響を持つものであるから協力の終止後においてもその國際的趨勢を常に注意する必要があることは勿論である。

かくて國際労働會議へのかが代表派遣も本年の第二十四回會議をもつて中絶することとなつたわけである。

十一月三日 武漢陥落後の新態勢に對處して帝國不動の方針と態度とを中外に闡明すべき聲明は一日の閣議で決定二日近衛首相が宮中に參内内奏の上政府は三日附これを發表したが聲明全文左の如し。

「今や、陛下の御稜威に依り、帝國陸海軍は、克く廣東、武漢三鎮を攻略して、支那の要域を裁定したり。國民政府は既に地方の一政權に過ぎず。然れども、尙ほ同政府にして抗日容共政策を固執する限り、これが潰滅を見るまで、帝國は斷じて矛を收むることなし。

帝國の冀求する所は、東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設に在り。今

次征戰究極の目的亦此に存す。

この新秩序の建設は日滿支三國相携へ政治、經濟、文化等各般に互り互助連環の關係を樹立するを以て根幹とし、東亞に於ける國際正義の確立、共同防共の達成、新文化の創造、經濟結合の實現を期するにあり。是れ實に東亞を安定し、世界の進運に寄與する所以なり。

帝國が支那に望む所は、この東亞新秩序建設の任務を分擔せんことに在り。帝國は支那國民が能く我が眞意を理解し、以て帝國の協力に應へむことを期待す。固より國民政府と雖も從來の指導政策を一擲し、その人的構成を改替して更生の實を擧げ、新秩序の建設に來り參するに於ては敢て之を拒否するものにあらず。

帝國は列國も亦帝國の意圖を正確に認識し、東亞の新情勢に適應すべきを信じて疑はず。就中、盟邦諸國從來の厚

諒に對しては深くこれを多とするものなり。

惟ふに東亞に於ける新秩序の建設は、我が華國の精神に淵源し、これを完成するは、現代日本國民に課せられたる光榮ある責務なり。帝國は必要なる國內諸般の改新を斷行して、愈々國家總力の擴充を圖り、萬難を排して斯業の達成に邁進せざるべからず。

茲に政府は帝國不動の方針と決意とを聲明す。

武漢攻略戰は既に成つたがその感激に浸間もなく我軍は更に行動を開始、新なる大飛躍が展開されんとして居る、即ち武漢を中心とした南北に伸びる戰局の推移で北は應山、東は大別山西南に逃げ遅れた敵二十箇師の包圍殲滅戰、南は長江筋の進撃は勿論、粵漢線に沿うて進撃する南下部隊は咸寧附近で機關車、貨車百餘臺を鹵獲して勇躍、二日夕刻には蒲圻縣城を奪取、引續き前方に横はる陸水の線

に殺到し、又一隊は長江岸に出で嘉魚に至る一里の一里舖を占領、長江筋の敵の退路を扼して居り、更に他の部隊は咸寧より南下八里大屋冢南方を竊進中で、これに呼應して遙東方はこれ亦通山東方大敗市を二日夕刻完全に奪取、西進中で着々と戰果を擴大しつゝあり、敵の不落を誇つた蜿蜒たる所謂大幕阜山を我が手中に收めるのも愈近きにあるを思はせる蒲圻縣城は陸上においては粵漢線上の要點を占め水上においては陸水を通じて揚子江との船便を有し特に岳州、崇陽を繋ぐ軍事上の要點であり、支那側の大湖南保衛策の北部第一線據點とした所である、従つてこの陥落により長沙保衛線の一角は崩れ去つた譯である。

長驅進撃を續け二日夜長江岸に殺到した田島快速部隊は夜襲を以つて漢口上流約八十哩の嘉魚縣城に迫り、三日朝完全に之を占領した、時宛も明治節の佳日に當り縣城一帯に日章旗は翻翻と翻り、感激

に充ちた萬歳の聲は長江を壓したが、これにより長江上流の重要防衛線は完全に崩壊し、武漢陥落後に於ける支那の所謂第四期戰の遂行上に重大打撃を受ける事となつた。

十一月四日 イギリス議會は四日を以て一旦閉會し、八日から新會期に入るが四日の開院式においてジョージ六世陛下は勅語を賜ひ特に日支事變につき左の如く宣べられてゐる。

「余は日支間の敵對行爲が未だ續けられ兩者の戰鬥員に多大な生命の損失をもたらし且つ第三國の權益に甚大な損害を與へてゐる現状を遺憾とする、余は右紛争が速に終了せんことを衷心希望するものである」

右勅語はモークハム上院議員が奉讀したが八日の開院式には皇帝の臨幸があり開院式に勅語を給はるはずである。

十一月五日 保險院保險制度調査會二行制(勅令第七〇七號)公布

十一月六日 日本の東亞モンロー主義の宣

言によりフランスの指導階級は初めて廣東漢口陥落の持つ意義の重大性を認識せるものゝ如く漢口陥落の後には態度一變、九國條約の廢棄を示唆した。

こゝにおいてフランスではカイゼルの唱へた黃禍論が實現したものとなし、且つ歐洲が歐洲における區々たる小問題に拘泥してアジアの事態を閑却してゐる中にチンギスカン以來の歴史的大變動あり、三世紀に互る白人のアジア經路が危殆に瀕してゐるのだが日本をして東亞の盟主として世界的に影響を及ぼす勢力たらしめたのは……

要するに歐洲における割據抗争であるとなし來る二十三日より三日間の英國首相外相のパリ訪問において先づ歐洲の安定を計らうとフランスでは多大の期待をかけてゐる、即ちこのパリ會談をもつてミューンヘン協定を地盤とする英佛獨伊四ヶ國協約を建設する基礎工事たらしめんと

するものである、この工事の計畫として傳へられるところでは、

一、英佛パリ會談

二、チエンバレン、ムツソリニ會談

三、チエンバレン、ヒットラー會談

を経て英佛獨伊四ヶ國首相會談となり先づ四國空軍協定を成功せしめ次いで全體的の四國協定に至らうとするものである、要するに來るべきパリ會談は英佛樞軸と獨伊樞軸とを接近せしめる豫備工作と見られてゐる、尙印度支那防備に於て獨力では如何ともなし得ないフランスは白人全體、少くとも歐洲全體の共同勢力をもつて東亞の事態に當らしめることを希望せざるを得ないので。

伊國のエチオピア占領、ドイツ軍のズデーテン地方進駐の如きは日本の支那制御に比べ世界全體に直接影響を與へぬ地方的な事件に過ぎぬとなしフランスは英國に便乗して歐洲の安定を圖ると共にアジアにおける植民地及び權益

を擁護せんと欲してゐる。

十一月七日 粵漢線一帶に破竹の進撃を續

ける我軍は蒲圻西方で敵第四十、六十八、百五十六の各師を屠り遂に六日午後六時頃湖北、湖南省境の要害新店鎮を占領日章旗を夕陽に輝かした、同日他の一部隊は新店鎮東方三里新塘角附近で激戦後所在の敵數千を潰滅更に西方に向つて猛進中で岳州(岳陽)まで約十八里となつた、一方これに呼應し楠林橋方面から西進中の我が諸部隊は同日これ亦著るしく猛進遂に午後四時頃長沙防衛の第二線で蒲圻と並んだ堅壘崇陽に突入これを完全に占領し引續き陸水に沿うて西方に役途中でこれにより湖北省内における長江南岸の要衝は僅に通城を除き悉く我手に歸した譯である、尙通山方面では我軍に擊破された敵は第四十五、五十、九十二の各師約六千で多數の兵器と共に死體約四百を遺して潰走したものである。

宮崎、藤田兩部隊は六日午後七時崇陽南

方五キロ華山、劉家を占領。

崇陽を一擧に奪取した長谷川部隊は息つく遣もなく西進を続け六日日没時崇陽西方八キロの石華山を占領。

十一月八日 前日来勇猛果敢なる進撃を続けつゝありし揚子江海軍遡江部隊は昨朝

來更に機雷原の強要突破を敢行その先頭は既に漢口を距る九十里赤壁の下流に達したり先頭隊の一部は赤壁附近に於て機雷を投下しつゝあり大型ジャンク一隻を認め直にこれを砲撃沈没せしめたり、昨日中に處分せる機雷數實に約百五十個に達せり我が遡江部隊が進出した赤壁は寶塔洲上流石頭關にあり、三國時代に吳の周瑜が魏の曹操を破つた古戰場だと傳へられる、蘇東坡が清遊長賦した黃州の赤壁とは全然別の所であるなほ周瑜の古戰場には敷説があり石頭關よりやゝ下流の嘉魚といふ説もある。

判明せる武漢攻略戦の綜合戦果左の如し
◇河南省方面（八月廿一日廬州出發より

概ね十月中旬迄）

敵遺棄屍體 四萬八百五十

俘虜 一千五百七十

主要鹵獲品 重砲五門、野山砲百二十

一（彈藥六百廿四）對戰車砲二十、

迫撃砲四百十八、步兵砲八、重機關銃

五十四、輕機關銃四百三十七、小銃

六百六十七同彈藥六十八萬五千八百

我が戦死（八月下旬より十月下旬迄）

一千六百四十七

◇揚子江方面（七月下旬九江上陸より概

ね武漢攻略迄）

敵遺棄屍體 十萬二千八百

俘虜 三千七百

主要鹵獲品 重砲四十一野山砲十（彈

藥九千九百五十）高射砲十四、對戰

車砲七十六、迫撃砲六十四、步兵銃

九十四、重機關銃三百十三、輕機關

銃八百、小銃一萬四千八百二十、彈

藥七百六十一萬

我が戦死（七月下旬より十月下旬迄）

四千五百六

◇右合計

敵遺棄屍體 十四萬三千六百五十

俘虜 五千二百七十

鹵獲品 重砲一百、野山砲百三十一、

高射砲十四、對戰車砲九十六、迫撃

砲四百八十二、步兵砲百二、重機關

銃三百六十七、輕機關銃千二百三十

七、小銃一萬五千四百三十七、同彈

藥八百二十九萬五千八百

我が戦死 六千五百五十二

十一月九日 廣島縣知事富田愛次郎氏依頼

免官後任として靜岡縣知事飯沼一省氏廣

島縣知事に厚生省社會局長山崎巖氏靜岡

縣知事に内務省人事課長新居善太郎氏厚

生省社會局長轉出に伴ふ異動は九日左の

通り發令された。

内務省文書課長 數 藤 鐵 臣

内務省人事課長を命ず

内務省土木

局道路課長 石 井 政 一

内務省文書課長を命ず

厚生省社會 局保護課長 藤 尾 弘 吉

内務省土木局道路課長を命ず

通城東側高地の陣地に據る敵大部隊は我が南下部隊の意想外の突入に退路援護のため終日頑強に抵抗した我が楯、藤田兩部隊の決死的突入によつて同日午後六時十分通城縣は完全に占領し、澄み渡る月明の城壁上高く感激の日章旗を打ち立てられた、岡崎、宮崎、小林(信)、宮脇、石井、小川の諸部隊も相次いで入城、萬歳の歡聲は江南の夜空を搖がした。これら諸部隊の進撃振りは實に物凄いものであつた、威寧から通城まで百四十キロの街道の兩側は重疊たる山岳地帯で敵に取つては屈強の陣地であつたがわが軍は左右兩翼と本道上の三隊に分れて最後の抵抗を試みる敵を痛撃、威寧出發以來僅か十日間にこの三十五里に互る戦線を突破したもので武漢攻略後と雖もわが軍將士の士氣はいよいよ旺盛を極めて居る。支那全土の制空權獲得を目標とする我海

軍航空隊は今夏以來漢口、廣東兩作戦に協同すると共に幾度か奥地敵航空基地を空襲敵空軍撃滅に努め十月末日遂に敵機損害千四百機を突破するに至れり、この間我亦百十機を尊き犠牲を拂ひたりと雖も今や支那全土を悉く我爆撃圈内に收むるの偉業を完成せり。

又廣東、漢口兩作戦に於ても海軍航空隊の協同は我南支派遣陸軍をして破天荒の急進撃を實施せしめ又徳安西方に於ては我陸軍と對峙せる敵を急襲して敵屍四萬山腹を覆ひ谷を埋むる空よりの殲滅戦を展開する等上陸作戦、遡江作戦、野戦山岳戦に協力制空威力を存分に發揮し敵をして廣東武漢の放棄に至らしめたる重要な原因を作爲せり

既に敵空は漢口、孝感、廣東の主要基地を失ひ南昌潰滅し前線航空基地衡陽亦我連日の空爆に死相を呈し來れり。

今や敵空軍には事變當初連日連夜上海を空襲せる如き積極的意思無く只管我空襲

を免れんとして梁山、成都、昆明等奥地のみを流遁しつつ勢力保全に汲々たる情況に轉落せり。然れども敵空軍今尙百數十機を保有し銳意第三次空軍建設に進まんとしつつあるを以て我方亦完全れる敵機撃滅を目標とし更に邁進せんとするものなり。

十一月十日 事變下二度目の通常議會たる第七十四回帝國議會は來る十二月廿四日東京に召集する旨の議會召集詔書は十日附官報を以て左の如く公布された。

詔書

朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依り本年十二月二十四日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名御璽

昭和十三年十一月九日

各國務大臣副署

重要輸出品取締施行規則中改正ノ件(農工省令第九三號)公布
内務省に於ては午前九時全員集會皇城遙

拜々代齊唱、詔書勅語捧讀の擧式があつた。

九日通城を占領した我が部隊は十日更に追撃の手を緩めず、猛烈な勢ひで南進、既に通城南方約十キロ十里子を通過して猛進し省境を突破して湖南省に突入、山の向ふは湖省市北部の要點平江である、平江は長沙防衛の第一線陣地である、更に平江に對する我が攻撃は敵の兵站線動脈である武寧、平江道路を完全に壓倒し武寧西方溪、修水、渣津各沿道要點を中心に支那軍は百名二百名の小部隊を組んで續々西方に向つて退却中であり、自動車砲車も混亂しつゝ潰走してゐる一方岳州攻撃部隊も十日正午十五キロの近くに迫つた。

十一月十一日 岳州の一角へ突入した藤岡中野兩部隊は憩ふ暇もなく折柄雲間を洩れる薄月影の下に續々と城内に殺到、殘敵掃蕩を開始した。

白石嶺鳳凰山一帯に互る十數條の防禦線

に岳州絶對不拔を誇りつゝ最後まで頑強な抵抗を續けて來た敵大軍も我猛進撃に耐へず遂に潰走、岳州城内に雪崩れ込み支離滅裂の慘狀を呈してゐるが急追中野部隊の一角突入により狼狽その極に達し或は突かれ或は斬られ十時以後ちよつと顔を見せた月影に阿鼻叫喚この世の地獄を現出して様々な落城の光景を呈してゐる。

武漢攻略後揚子江を遡江中なりし我が陸軍部隊は十日岳州東北約三十キロ臨湘附近兩岸地區に敵前上陸を敢行し又有力なる部隊は更に十一日朝城陵磯（岳州下流八キロ）附近に上陸し粵漢線に沿ふ地區に作戦中の部隊に協力し岳州附近の敵を攻撃中なり。

十一月十二日 粵漢線に沿ふ地區進撃中なりし我が部隊は十一日午後九時十分洞庭湖畔の要衝岳州を占領せり。

長江を一眸の下に収める湖南第一の要害岳州は藤岡部隊を先鋒に十一日午後九時

十分遂に陥落、十二日朝全市の掃蕩を完了した、即ち粵漢線に沿ひ敗敵を撃破して一路猛進した我が部隊は遡江部隊と協力頑敵を押し捲くり岳州東北方に屹立する金鷄山に迫り困難な夜襲を敢行して一舉に突入したものである、この水陸兩道路の要衝の占領により今後の戰略的飛躍は測り知れぬものがあり、湖北、湖南の敵を完全に切斷すると同時に長沙への脅威は非常なもので〇〇方面より險巖な山嶽地帯を突破すること正に百里二ヶ月の困苦と力闘は全く驚異的である。

十二日我が飛行機の偵察によれば敵は岳州陥落に狼狽し早くも長沙飛行場の破壊を開始した。

十一月十三日 岳州占領部隊は十二日夕刻岳州南方二キロの南津港を占領し洞庭湖の咽喉を完全に扼するに至つた、また岳州東方三十二キロの桃林を突破した部隊は十二日夕刻現在同地南方五キロのところを追撃中であり、通城方面においても

その南方十二キロ老片舖に達し水流を隔て、盛んに攻撃中である。

本十三日午後三時海軍部隊の先頭は岳陽樓に突入之を占領せり。

本十三日午後三時海軍部隊の先頭は岳陽樓に突入之を占領せり。

(岳陽樓は岳州府城の西門上にある唐代以來の城樓、現在の塔は清の乾隆五年に築造せられ、古來白樂天、杜浦の巨筆によつて知られてゐる通り樓上よりの洞庭の美觀は實に天下に冠たるものと人口に膾炙されてゐる。)

十一日における海軍航空部隊の活躍左の如し中支方面においては左記個所を襲撃し多大の戦果を収め全機無事歸還せり。

一、敵軍事據點金華驛(浙贛線)においては貨車群倉庫及び驛構内集積物を爆撃、これに大損害を與へたり。

二、公安(湖北省南部省境)においては集積せる軍需品多数を炎上せしめたり

三、常德、桃源附近においては倉庫群及

び疾走中の自動車群を爆撃し自動車多数を猛火に包みたり。

四、石首方面の砲艦爆撃

五、他の一部隊は主として陸軍の作戦に策應し陸軍前面の敵攻撃に當りたり。

×

南支方面においては内陸密雲深く攻撃困難なりしにも拘らずその一部隊は大平、清遠及び平岡附近の敵を攻撃し多大の効果を収めたり。

×

昨十二日中支方面において海軍航空隊の一部は陸軍に協力粵漢線黃沙驛を攻撃し敵兵滿載の列車を粉碎し又線路數個所を切斷せり、通城の南方地區一帶の敵大部隊を爆撃しこれに大損害を與へ據點部落數十個所を炎上せしめたり

十一月十四日 綿製品ノ製造制限ニ關スル

中改正(商工省令第九四號) 綿製品ノ販賣制限ニ關スル件改正(商工省令第九五號) 公布

十一月十五日 鵬程實に〇〇キロ十五日敢

行されたわが原田部隊の陸の荒鷲による蘭州爆撃は陸軍機として實に最初の長距離爆撃行でわが陸軍航空部隊の新記録であると共に、

一、絶對的に急戦法をとりたること。

二、〇〇機のみにより單獨行動でありしかも敵戦闘機群百餘機が待機せりと傳へられる敵中に敢然突撃せるはわが〇〇機の果斷なる威力發揮の行動であること。

三、果斷なる威力發揮するため行動目的に不必要的品は一切携行しなかつたこと。

四、行動の地は朔北不毛の地でしかもその行動は夜間飛行なること。

五、離陸より着陸までその翼下は總地なること、従つて若し不時着陸などの偶發事あらんかその際は最後の覺悟を要すること。など航空戦としては珍しい特徴を以て敢行されたもので、實に陸

軍航空戦史上空前の壯舉といはれるものである。

陸軍飛行部隊の栗原、酒本兩部隊は新銳〇〇機を以て本十五日長驅馳雲を冒して赤色路線の根據地たる甘肅省蘭州を空襲せり、同部隊は同地上空において敵戦闘機と壯烈なる空中戦を交へこれが二機を撃墜し蘭州の西郊及び北方の軍事施設及び飛行場を爆撃して多大の効果を收めたり、尙一部は寧夏を爆撃し同地の軍事施設を粉碎し無事歸還せり。

十四日中支方面において海軍航空隊の精銳は浙江省、湖南省の要衝、鐵路及び敵軍據點を猛撃し多數の貨車群、倉庫群を爆破粉碎し交通機關に甚大なる損害を與へ全機無事歸着せり即ち、

(イ) 浙贛線蘭溪義烏において驟施設二つ、倉庫二つ及び其他集積物數ヶ所に爆破炎上せしめたり。

(ロ) 岳州、衡陽間粵漢線上の列車、貨車群多數を撃破し、藕池口(石首西北

方)においては敵砲艇を襲撃砲艦一、其三他三隻を撃沈又は顛覆せしめたり

(ハ) 陸軍の作戦に策應せる部隊は修水、平江又は大平(安徽省南部)附近の敵を猛爆しこれを潰走せしめたり。

(ニ) 常德附近においては前日に引續き軍需品貯藏所數ヶ所を炎上せしめたり南支方面において海軍航空隊を爆發せしは十三日四會を攻撃し兵營を粉碎火藥庫めたる外昨十四日その精銳〇〇機は遠く南雄(廣東省北部)飛行場を急襲し倉庫群の大半及び滑走路を爆破しこれに多大の損害を與へたり、敵機影を認めず全機無事歸還せり。

十一月十六日 支那軍は既に長沙、南昌を防衛する意志を失つた假令一部將領が尙も打續く敗戦に懲りず敗殘の兵に鞭打つて抗戦を號令しようとも既に全將兵に戰意なく岳州、南昌間の全戦線を擧げて敵は敗走或は後退、我軍の追撃に抵抗らしい抵抗も見せず大部隊集團が南へ南へと

下つて行く、又それより以東の平江、永修、奉新の等各城市は今やごつた返して第一線の守備を完全に放棄して只我が追撃を避けて後方に逃げ廻びるべし狂奔して居る有様である。殊に長沙南方湖潭、衡陽附近でも既に浮足立ち南方へ移動する部隊が多く長沙城内には火災が起り混亂はその極に達して居ることが我が飛行偵察によつて明にされた、この報告によつて我軍の士氣は益昂り追撃の意氣は銳さを増して行く。

十六日午後零時四十五分我が陸の荒鷲中村、小森、鈴木の各部隊は陝西の空を蔽はん計の大編隊を以て再び西安を空襲したが決死的覺悟の空の勇士は雲を縫つてグン／＼低空飛行を敢行、西安停車場にあつた約四ヶ列車目がけて互彈を投下、その大部分は驛家屋、機關車、貨車及び軌道に命中し木葉微塵に粉碎し機關庫及び驛東側建物には火災を起して猛焰天を衝き隴海線を遮斷して大損害を與へた。